令和７年度第３回箕面市総合教育会議

◆　日時：令和 8 年 3 月 17 日（火）13:30 ～ 15:30

◆　場所：箕面市役所本館 2 階　特別会議室

◆　出席者:
【箕面市】
原田市長
【箕面市教育委員会】
藤迫教育長、高橋委員、飯田委員、酒井委員、荒木委員、桑野委員
【事務局】
久下教育次長、藪本局長、今中担当部長、浅井担当部長、三島副部長、髙取学校教育監、濵口担当副部長、山田担当副部長、山根担当副部長、遠近担当副部長、北川室長、新井室長、赤城室長、野村担当室長、小木曽室長、谷尾室長、渡邊室長、北村担当室長、徳留室長、多々館長

◆　傍聴人：8 名

◆　議事内容
（事務局：藪本局長）

- 定刻となりましたので、ただいまより令和 7 年度第 3 回箕面市総合教育会議を開催いたします。
- 本日の司会進行を務めます、箕面市教育委員会事務局子ども未来創造局長の藪本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
- それでは早速、本日の 1 つ目の議題「箕面市教育大綱実行計画 2025 結果報告について」に移らせていただきます。
- 教育大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、地方公共団体の長に大綱の策定が義務づけられており、本市では、市長の任期に合わせ、計画期間を 4 年間としています。
- この教育大綱に基づき、本市では教育大綱に掲げられた方針を実現するための単年度計画である教育大綱実行計画を、毎年度策定しています。
- 本件は、昨年度末に策定した「教育大綱実行計画 2025」に基づく取組の結果について、ご報告をさせていただくものです。
- まず、お手元にある資料 1「箕面市教育大綱実行計画 2025 の結果報告」の資料の構成についてご説明いたします。この結果報告の資料は、箕面市教育大綱実行計画 2025 における重点事項、「学校教育」「子育て施策」「生涯学習・社会教育」ごとに記載しています。
- 具体例を 1 点ご説明させていただきますと、1 ページ目の学校教育の重点項目「①小・中学校 9 年間の授業で英語が話せるまち 箕面の実現」の 3 つのダイヤマーク（◆）は、箕面市教育大綱実行計画 2025 で定めた年次計画を反映しています。この計画に対して、「令和 7 年度の取組」と「次年度の方向性」について記載しています。

- なお本議題を進めるにあたりまして、出席者には事前に資料を配布し、内容をご確認いただいていることから、時間の都合上、事務局からの諸報告は省略し、意見交換のための時間に充てたいと考えております。

（事務局：藪本局長）
- それでは早速、意見交換に移ります。
- ご意見・ご質問がある方は挙手にてお願いいたします。

（箕面市教育委員会：荒木委員）
- 教育委員の荒木です。よろしくお願いします。
- 2025 年の結果で、幅広く学校教育で、まず市長にお伺いしておきたいのが、この取組の中で、さらにやってる、やったというところが見えるところだと思いますが、どの変化を一番成果として見ているのかが気になりました。
- 学校教育で現場の手応えなのか、この箕面らしさというのが出てきたと感じる部分なのか、まず共有していただけると、この後の議論が深まりやすいと思いましたので、その辺を質問させていただきたいと思います。

（箕面市：原田市長）
- 質問の確認ですが、学校教育の部分で、私にとって成果が出たなと思われる項目はどれですかという質問ですか。
- どれか 1 つということを考えてなかったんですが、順番にいくと英語教育は今回、英検 3 級以上の割合で、数字的に下がっているのは残念ではありました。
- ずっと言っていたニュージーランドハット市以外とのオンライン交流として、フィリピンに拡充されたのはすごく良かったと思います。ICT の部分ですが、LITALICO を導入して、アンケート結果も本当に良い評価で、次もまた使いたいということがあったので、LITALICO についても良かったと思います。
- ただ ICT の部分で、民間事業者頼みのプログラミング出前授業になっていて、この事業者が撤退したらどうなるのかという思いもあります。
- ずっとお伝えしてた ICT やタブレット学習の弊害の部分を、どうやって解消していくかが今も不十分に感じているので、次年度は、ごめんなさい、極端なことをお伝えすると、例えば、もう低学年にタブレットを持たせない、低学年 1、2 年生は読み書きをしっかりできるようにとか。今回、国語力も学力テストの結果、課題があって、理科も課題がありました。すべてが読解力のところから起因するものだと思っているので、読書習慣を持たせるような 70 周年記念事業もやっていきますが、その ICT の課題の解決策としては、少し不十分だったのではと思っています。
- この中で、大きな成果を上げたところはスクールロイヤーの部分で、複雑多様化する保護者との問題等の解決に繋がっているとともに、研修や授業も結構していただき、体罰、ハラスメント、カスハラ対策などもそうですが、目に見えて成果を上げている。スクールロイヤーという新しい制度を導入した結果として、大きな成果が出ているのは感じます。
- 体力についても追記してもらったところですが、学校だけでやるのではなくて、家庭で過ごしていただく時間が大半ですので、体育の時間のコマ数は限ら

れてる訳ですから、もっと家庭で運動する習慣づくりを保護者に依頼するような取組を、もっとやっていただきたいと思っています。

- 最後に小中一貫教育のところですが、コーディネーターが有効に機能しているというところも感じています。
- 学校給食の取組も今回、学校給食甲子園に出場して成果を上げていると感じていますので、引き続き取り組んでいただきたいと思ってます。
- 長くなりましたが、どれか１つをもって成果を上げたというか、それぞれに成果を上げている部分もあれば、課題に感じている部分もありますので、そういった部分を改善していただければと思っています。少し網羅的に答えてしまいました。

（箕面市教育委員会：荒木委員）

- ありがとうございます。全体として前進してるという認識は共有していただいたんですが、後半にまたお話できたらと思いますが、市長が話されている教育世界一を看板に掲げてるとなると、やはり柱となるところは絶対に必要と思ってます。
- 今まで言っていただいたのは、やはり今まで教育委員会が積み上げてきたことと思うので、何か新しい柱をどこに置くのかというところは、やはり改めて市長目線でも見ていただきたい、私たちもその方向性を示していただきたい、というところはあります。

（箕面市：原田市長）

- 初めての教育総合会議などで、ホワイトボードを使いながら説明させていただきましたが、世界の中で今、日本の読解力や数学の力は、世界で見るとトップレベルに PISA のランキングで、ただ足りてないのが英語教育と ICT 教育の部分だと。これを伸ばすことで世界一に繋がるんですという議論をさせていただきました。
- 今回思い切って、学校教育の目標をグローバル人材を育みますというところで、国内で活躍する人材はコアグローバル人材ではないのか等の声もいただきました。
- グローバル人材を育みますという定義づけをさせていただいたので、その点で言うと世界一に近づけようと思うと、やっぱり英語教育と ICT 教育という、日本の教育ができてない部分をしっかり拡充させていくというのが、世界一に繋がることだと思っています。だから英語と ICT には力を入れていっていただきたいと思ってます。
- ただ、全国トップレベルである学力テストの結果も、しっかり維持していかないといけないので、今年の計画の中には「基礎学力」という文言を入れさせていただいています。テストの結果だけで判断するなというかたもいらっしゃいますが、ただ子どもたちの頑張り、努力とかを測る指標がやはり学力だと思っていますので、そこはしっかり評価してあげないといけない、基礎学力も重視をしていかないといけない。
- だから、全国でもトップレベルの箕面の学力を維持しているのが前提で、英語と ICT に力を入れれば世界一に近づいていく。だけど、その基礎学力が下がっていってしまうと、日本の中の全国トップレベルという土台が崩れていくと、

世界一から遠のいていくわけですから、もうそれは前提として、もちろん力を入れていかないといけない。

- ただ、日本の教育ではできてない英語と ICT に力を入れていくことで、そもそも英語は力を入れてきた、ICT も GIGA スクール構想前から、1 人 1 台タブレットはやっていて、土壌はある。だから、この 2 つをしっかり伸ばしていくことが世界一に繋がっていくと思っているので、この英語と ICT の部分は力を入れてほしいと思っています。

（箕面市教育委員会：藤迫教育長）

- ありがとうございます。英語も ICT も全部大事だと思うんですが、一方で、支援体制とか小中一貫校のような見えにくい土台のところも、その世界一を具体化するには必要と思うので、市長も考えておられることもあると思いますが、その辺も含めて考えていってほしいと思っています。

（箕面市：原田市長）

- そういう意味では、新年度予算で教頭の支援員を全校配置させていただきますし、今まで教員の支援員も置かせていただいたり、生徒指導をフォローする人間も置かせていただいたり、負担軽減策も併せて進めさせていただいてると思ってます。
- 教員の事務を軽減する ICT 化も進めさせていただいていますので、それも冒頭の会議でお伝えしたように、新しいことをやるのであれば、負担軽減策であったり、何かやめることもセットで提案しないと、現場の負担が大きくなっていくので、軽減策も提案をさせていただいているつもりです。
- その最たるものが、部活の地域移行を令和 9 年度にやる。他のまちより先んじてやることが、かなり大きな負担軽減にも繋がっていくと思っているので、もうそれはかなり意識をしています。

（箕面市教育委員会：桑野委員）

- 教育委員の桑野です。よろしくお願いします。
- 大分、具体に言っていただいてたので、重複しないようにと思いますが、次年度の方針のところで申し上げようと思ってましたが、市長が話されたスクールロイヤーの配置です。これは本当に大きな成果が感じられたと思います。学校に出向いての授業も拝見し、管理職と生徒指導担当の研修にも行かせていただき、非常に有意義でした。常駐していただくことで、意味があったと思っています。
- 学校でのトラブルについて、初期対応の段階からと書いてあります。次年度もそう書いてありますが、私は未然防止からと思うので、初期対応では遅いということも経験上多々あります。未然防止の考え方をもっと徹底していく必要があると思って拝見してました。
- それから市長が話された ICT のタブレットで、低学年の利用を話されたんですが、民間委託のプール指導でどうだったかというのをタブレットで回答しております。
- 1 年生からですので、どこで有効に使うかというその考え方で、読解力というお話もありましたが、もちろんそれも大切です。でも、タブレットを有効に慣れ

親しんでいくという素地が、1年生からそうやって選んでいく、そんなところからで大丈夫だと思います。なくしてしまってとさっき話されたので、少しびっくりしましたが、だから要するに使い方かなと。

- これは小さい子どもだけではなく、教員もそうだと思います。学校によって、いろいろ働きかけを市教委からされてますが、やっぱり活用度って違いがあります。ですので、やっぱりそういうリーダーになるかたを市教委の担当にして、学校にどんどん向かっていくことをしないと、全体として不十分なところがあるかなと考えました。
- それから、英語教育のことや不登校支援のことは、次年度の方針のところで、話そうと思っていますので、よろしくお願いします。

（箕面市：原田市長）

- ありがとうございます。
- スクールロイヤーは本当にその通りだと思いますが、1人だけしかいない中、どこまで未然防止のところまでアプローチできるか。だから問題が顕在化してからでないと、対応できない現状があるのかと思いながらも、こういう研修をするのは、まさに未然防止の1つと思っています。1年目でどうなるかなと思ってましたが、本当に有効であるという声をいただいて、成果として出てると感じてますので、1年目の反省点を生かして、2年目はもっとよりよい活動になっていくと思ってます。
- タブレットは、本当に保護者からの声が結構あり、子どもたちがずっとタブレットを触っている、家では制限しているのに学校では触らせている、そもそも1年生のランドセルに持ち帰りさせるのが良いのかと。tomoLinksは3年生からとかにして、1、２年生は連絡帳を復活しろとか、いろいろな声が恐らく皆さんのところにも届いていると思いますが、そこに対する有効な打ち返しができてないとは思っています。
- 保護者のかたに納得してもらって、安心してもらうことが、私は十分にできているとは感じていない。因果関係が不明なんですが、今回、国語の学力が厳しく少し課題があった、相対的に順位が下がってることは間違いないので、それがタブレットであるという因果関係は結びつけられていません。
- ただ、どうするんだというところを示せていないのも事実であり、その保護者の納得感とかを高めるような取組を、ずっとしてほしいとお願いをしているので、そこは何か考えていただければ、ありがたいなとは思っています。

（箕面市教育委員会：藤迫教育長）

- 言い訳ではないですが、過渡期の部分があり、仮に1、２年生をやめて、いつまでやめるのか、10年先までやめるのか。世の中の流れから言うと、1、２年生をやめるのは10年先まで。1、２年生をずっとやめ続けるかとなると、今これだけのスピード感で世の中が変わってる中で、多分それはもう無理と思います。
- 何年か後には、幼稚園ぐらいからみたいな話になると思うので、過渡期にあるのかなと思ってます。ずっと言われてるのは、やはり重たいっていう議論はありましたので、今回は充電器はもう持って来なくてもいいようにしようかと、少しずつ小さな進歩ですが、それをやりかけているのと、やはり桑野委員が言うように結局、使い方なんです。使い方に保護者のかたが納得されたら、多少

重くてもそれはいるということですが、そこは確かに我々が打ち返せてないのが事実です。ですが、やはり過渡期であるのは間違いないかと。

- スマホでも、どんどん低年齢化していくので、我々、鉛筆、筆箱、タブレットと言ってますように、いずれ筆箱、鉛筆と同じようなことになる想定で取り組んでいます。

（箕面市教育委員会：桑野委員）

- 今まさに、教育長が話されたんですが、箕面はいろいろなことを早くからトライして、英語もタブレットも ICT も進んできたんですが、お話の中にもありましたように、新しいフェーズに行く段階だというのを、私もこちらに寄せていただくことで、現場とはまた違う見え方もあり、だから、どこをどうアップしていくのかを 1、2 年でしなくてはならない。
- 今までやってきたので、それをそのままやっていくということでは、対応できないことが出ていると思うので、だからそこを間違いなく進んでいくために、必要な改良とか改善という視点で、いろいろ見ていかなければならないと考えているところです。
- 冒頭、世界一の話もされたので、そうお考えだということを改めて心に十分に留めながら、どこを変えていけばどうだという話も、今回いろいろ結果報告とこれからどうするかを拝見して見えてくるものもあったので、それも後ほどと思っています。

（箕面市教育委員会：飯田委員）

- 今回はもう、箕面地域クラブというのがやはり大きな柱になると思っています。もう子どもたちの放課後が私たちの見てない時間の過ごし方になるだろうというところで、スタートアップに対して、お金をつけていただいて 60 もの方々が手を挙げてくれて、本当にスタートが切れたと思うんです。少し肌感的に地域クラブ活動が余りにも利用料の幅が広すぎたりとか、そもそもこの人たち継続可能なクラブなのだろうかと、いうところがやはり思います。
- 1 年半併走してするので、1 年半続けてくださいというクラブの助成金は必ず必要なのかなというのと、いかに完全に終わった時に移行ができるのかというデザインは今後も見ていただきたいのと、子どもたちが新しくサークルしたいと言ったときに、新しい芽をどんどん生み出すような土壌を、1 つ何か場所が欲しいと思います。
- それと事務の方で、年間 3 回保護者さんからお支払いしたから 2 千円ずつというところがあるんですが、余りにもアナログすぎて、その辺デジタルとか電子クーポンであったりとか、今後バウチャー制度も考えられていると聞いているので、そのつなぎ目のデザインを早急に言わなければ、多分、市民さん、保護者さん、生徒さんは一体どうなるんだろうかと、ただただ不安になって、いらないハレーションが生まれてくるのではないかと少し感じていますので、その辺の設計、教育委員会の方からもデザインしますが、そこの援助の方、お願いいたします。

（箕面市：原田市長）

- ありがとうございます。

- 利用料は月 2 千円でいくつかかなと思ってましたら、やはり週 5 回のところは 1 万 3 千円とか月謝取られるようなところもあって、勿論たくさんやっていただけるってのは、より部活に近い形なのでありがたい反面、2 千円を大きく超過するようなところがあって、会費支援といっても 2 千円ではなかなか大変だなというのはあります。令和 9 年度から額は未定ですが、1 万円に近い形でスタートすればその辺は解決できるんですが、このお試し 2 千円で、どこまで体験していただけるかというところは、確かに私もかなり幅がありましたので、2 千円に誘導していけるのかなと思ったら、それはそうですよね、活動頻度もバラバラで、頻度が多いところは、たくさんで会議が必要だというのはその通りではあるんですが、少し 2 千円から離れてるようなところが結構出てきているので、それは少し課題認識だと思ってます。
- やはり 1 年限定の会費 2 千円支援なので、令和 9 年度以降はどういうやり方でやるか、もう 1 万円のプッシュにしたら事務費はいらないんですが、その 1 万円が遊興に消えたりとか、習い事に使われないっていう恐れもあるので、ではバウチャーでいくのかとか、まだ今、制度設計中ですが、ずっと続く制度なので、外部委託してその事務の部分は教育委員会事務局でやるのではなく、アナログではないやり方になっていくと、この 1 年間は仕方ないところがあるだろうとは思っていますが、なるべく負担感なく、体験をたくさんしていただける負担軽減策は、もちろん取っていかないといけないと思っています。
- 本当に保護者の皆さんもこの転換期は不安だと思いますから、そこは我々も、令和 9 年度に会費支援をやるという経済的な負担がかかりませんということで、これだけ地域クラブが誕生してきてるんですということ、そして貧富の差にかかわらず、いろいろな体験ができる、この体験格差みたいなものを埋める制度であるというのは、しっかり広報してご理解いただいていくしかないと思っていますので、また引き続きご協力よろしくお願いいたします。

（箕面市教育委員会：藤迫教育長）

- 今、飯田委員が話されたように、思った以上に多くの団体さんが手を挙げて、私が聞いてる範囲でも、まだいくつか手を挙げたいといってますが、本当に今の第一次募集には揃わなかった。例えば面白いと私が思っているのは、タッキーさんが手を挙げようとしてくれて、どちらかというと部活動というよりもキャリア教育になるかなと思って、水面下で話してたら、アナウンスで話すコースと機械を操作して番組を制作するコースの 2 つを考えていて面白いと思いました。ぜひ参加するよう話し、一次で手挙げてくれると思っていたら、相談には来てたが、今回は控えて次の機会にしますとなった。
- そういった今までの部活動として、我々は中学校の部活動という狭い範囲でしか、このテーマを見てなかったですが、今、本当に社会教育化して広がりが出てきてますし、総合地域クラブみたいなところも、1 つ 2 つ出てきてますので、そこであれば、メニューをこういうのをしてほしいと投げかけ続けると、もしかしたら、いろいろ広がっていくと思います。
- サッカーをやるクラブに野球をやってと言っても無理ですが、いろいろなメニューをやってくれてるところが手を挙げてくれてますので、それが広がるのかなと。

- あと、これまで中体連とかの公式の試合はどうなるのかで、大阪府にまとめてくれ、誰と話したらいいのかと、市長も一緒に要望に行きました。サッカーの中体連はサッカーはこうしますが野球は知りません。野球はこうですが、バスケットはなど。我々が交渉の相手先を大阪府でまとめてくれとお願いしてました。いい返事はなかったのですが、先日ついに、中体連の全国組織全中連が2026年度から自治体が認定したクラブは、もう中体連の試合に出てますということを発表しましたので、大きな進歩かなと思っています。

（箕面市：原田市長）
- 今教育長が言っていただいたように、本当に地域移行するにあたって思うので、団体さんというかいろいろな活動の団体が手挙げてくれて、特に面白いなと思ったのが、万博でアートをしてた富永敦也さんというアーティストのかたで、石磨きクラブという、これ部活かと。これ地域の活動としてすごい面白い。
- あと教えるようなもの、この万博アーティストがそんなアートを教えるようなクラブを立ち上げてくださったのは、本当にすごい貴重な機会だと思います。我々が想定していた以上にいろいろなものが出てきているので、これは本当に部活の代替とかではなく、本当に生涯学習にも繋がっていくような、いろいろな幅広い体験ができる、キャリア教育にも繋がっていく、新しい可能性を感じるものです。
- 何かこの箕面で成功したら全国にも広がっていく、そんなフロントランナーとして我々はしているのを感じるものにしたいと思ってますので、ご協力よろしくお願いいたします。

（箕面市教育委員会：高橋委員）
- 高橋です。議題1つ目で、どうしてもやはり中学生は部活動で運動をしてた部分が大きいので、部活動の廃止がもたらす運動機会の減少と、それに伴う体力の低下の懸念はどうしても否めないというのはあります。
- その一方で、先ほどからお話されてるように、部活動が廃止され代わりにいろいろな受け皿を教育委員会で用意している中、新しい取組で石磨きもそうですし、健康マージャンとかいろいろ、この次の議題で何かそういうのもあって非常に面白いです。
- 多様性がある取組に中学生が時間を使える、そういうチャンスが生まれたと前向きに考えたいと思って、せっかくなのでスケボーチームなんかも入れてほしいと思ってます。せっかくこういう取組をするので、今後、箕面市として重点的に力を入れる競技とかも決めていって、箕面とは、みたいなのを作っていっても面白いかもしれない。
- 今のところはまだ過渡期というか、これから部活動が廃止されていって、受け皿を作っていくっていう段階なんです。1歩1歩着実に進めていき、今年度は来年度に向けた準備が非常にできているのではないのかと私自身は思ってます。
- あと、国際交流の活性化で、せっかく、これは市長も一緒にお邪魔させていただいたところがこの30周年ということで、ハット市に行かせてもらって、非常に綺麗なすばらしいまちです。ただ箕面市民の大勢のかたはそのハット市の、

下手したら名前も知らなかったりするわけで、こんなもったいないことはない。

- せっかく向こうのかたがおられて、ハカとかもされたり、我々が行ったときに向こうの子どもたちがハカを目の前で見せて、何かベロとか出してくれとか、何かなと思うと同時に、これが向こうの文化で本当に面白いと思いました。
- せっかく友好都市というのであれば、教育委員会でもやってるのであれば、全小中学校を巻き込んで、すべての子どもたちにハカを教えるとか、全学校対抗ハカコンテストをやるとか、ハット市と友好都市だからこそできる取組があっても面白いと思います。今年度の取組とかを見て、今後こういうことできたら面白いなという意見です。

（箕面市：原田市長）

- ありがとうございます。
- ハット市との交流は、私も現地に行くだけではなく、何か持ち帰ってこようと、オンラインツアーを今回やらせていただいたら、もうめちゃめちゃたくさんの応募を申込みいただいたので、参加できなかったかたもいて、本当に申し訳なかったんですが、新年度もオンラインツアー、日本にいながらハット市をオンラインで案内して、名勝を回ってもらいました。日本にいながら、ハット市を体験できるような市民向けのツアーを新年度も開催をさせていただくことを考えていますし、先日もわざわざ在ニュージーランド日本大使館の大沢大使がわざわざ来ていただいて、今後もニュージーランド・ハット市のみならず、ニュージーランドと箕面の交流をもっと深めていこうという建設的な話をさせていただいたので、せっかくこの30周年という節目を体験させていただいたことをしっかり生かして、さらに拡大していきたいと思ってます。ただ前の市長とは懇意にさせていただいてたんですが、新しい市長になって、私もまだ全然、面識交流がなかったので、大使から市長に繋いでいただく話もこの間させていただいて、しっかり交流していきたいと思っています。これまた後ほど、言おうと思ってたんですが、トゥイグレンスクールとの交流で去年は子どもたちも来てくれたんですが、何か彩都だけではもったいないと思っていて、トゥイグレンスクールとの交流をもっと他の学校に広げられないのかとか、あとは高橋委員に汗をかいていただいたフィリピンとの交流も、6中だけでなく、なるべく広い学校に海外との交流を、フィリピン、ハット市だけでなくてもいいです、別に英語圏だけでなくていい。JICAとか、海外のそういういろいろな団体が、日本の学校をつないで交流するプログラムもあるので、お金がかからずに海外の経験をさせられる、日本にいながら海外の経験をさせられるオンライン交流を、もっと学校を広げたり国を広げたりして、やっていっていただきたいと思っています。

（箕面市教育委員会：藤迫教育長）

- 私が話すと言い訳ばかりになりますが、よく言うのは日本人は国民性もあり、時間にきっちりしている。2時間目にオンラインするのに構えてますが、向こうは何かそろそろしようかみたいな感じで、10分、20分、30分ぐらい時間のロスがあり、時間の取り合いがなかなか難しい。いつも辛抱しきれなくなって、2時

間目 45 分しかないのに 20 分もロスの時間に取られたらで引いていく。向こうはやろうと思ってるが、うまくいかない。若干、言い訳としてあります。

（事務局：新井室長）

- オンラインでの国際交流についてですが、今年度は新しくフィリピンとの交流ということで、まずは 1 校、第 6 中学校と交流ができました。こちらの交流は授業時間を使っての交流と、放課後に生徒会の子どもたちとの交流という 2 つのパターンを今年度実施しています。
- 来年度からどのように展開していくかで、教育長からも、繋がるところと思ったように進める難しさはありますが、もし全校でとなりますと、放課後に希望する子どもたちで、という形が進みやすいかと。
- もしくは授業時間でというところになると、なかなか学校数をふやしていくのは難しいと、今、室でも検討しています。
- また AI を使った授業も取り組むんですが、無償ではないんですが、オンライン国際交流ができるというプログラムもありますので、そういう展開も、視野に入れていきたいと思っています。

（箕面市：原田市長）

- 時差の関係などで、この間、本当はもっと繋いでたものが縮小してきてたということもありますが、ただ先ほどお伝えしたような JICA が発展途上国の学校とこちらを無料でつないでくれるプログラムもあったり、海外との交流は別に半年とかフィリピンだけに限らず、チャンスを見つければ、できると思っています。ぜひこれからも貪欲に、オンライン交流、お金がかからずに日本にいながら海外と交流できる機会を増やしていっていただきたいと、注文しておきます。
- 体力向上は、今回わざわざ、新しく入れてもらったんですが、学校だけですべて責任を取ろうとしてはいけないと思ってます。繰り返しになりますが、体育の授業のコマ数で、体力向上に繋がるわけがないと思っています。もちろん、運動の仕方とか、ボールの投げ方とか、しっかり教えていかないといけないんですが。やはり家庭にいる時間でいかに運動をしてもらうかが、すごく大事なので、それを促すような取組を、我々としても、例えばこういう運動がいいとか、そういうものを促していく取組をしていかないといけないと思っています。
- 去年は大阪エヴェッサという新しいバスケットチームと包括連携協定を結ばせていただいたり、岩谷産業女子陸上競技部の寮がある関係で、スポーツフェスティバルで走り方を教えていただいたり、新しい取組もスタートさせていただいた。今年はエヴェッサのバスケットボールをスカイアリーナに設置させていただいたり、運動習慣をつけるための取組はいろいろ汗をかいてるんですが、やはり家庭でその意識を持っていただかないといけないので、その辺りは市長部局に来てから子どもからお年寄りまで運動習慣を持ってもらえるような取組は、しっかり進めていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。
- その一環として、パブリックビューイングも新年度、ガンバ大阪であったり、サントリーサンバーズ大阪とも、今検討してる状況になっています。市民に向

けて去年は学校でやらせていただいた林大地選手にも来ていただいて、大変な申込みをいただきましたが、そういうパブリックビューイングも考えていますので、よろしくお願いいたします。

（事務局：藪本局長）

- たくさんのご意見ありがとうございました。意見交換の時間としてはもう限られた時間だったんですが、この間、教育委員の皆様から、市長からもたくさんのご意見頂戴しておりますので、委員会といたしましても、引き続き来年度も取り組んで参りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
- では続きまして、2 つ目の議題「教育大綱実行計画 2026 案について」を進めさせていただきます。先ほどの案件に続き、次は「教育大綱実行計画 2026」の策定に向けて意見交換を行います。まず資料 2、教育大綱実行計画 2026 案について事務局から説明を簡単にお願いいたします。

（資料２に基づき事務局から説明）

（事務局：藪本局長）

- それでは説明がありましたので教育大綱実行計画 2026 について意見交換をお願いいたします。ご意見あるかたは挙手をお願いします。全体で 20 分程度を予定しておりますので、よろしくお願いします。

（箕面市：原田市長）

- 確認なんですが、今回、市長部局に生涯学習・社会教育分野が来るんですが、市の方針を示すと、この総合教育会議の中で生涯学習社会教育まで含めて、市の方針を示すということと、逆に教育委員会側が市長に生涯学習・社会教育についての意見を言う場、意見交換の場として、教育大綱の中の実行計画 2026 年にも生涯学習・社会教育を明記をしている、ということでご理解いただければと思っています。

（箕面市教育委員会：酒井委員）

- 酒井です。この比較表もありますが、大項目の学校教育のところは、多分もう長年グローバル人材を育みますだと思うんです。私個人の意見もあるかもしれないが、グローバルという言葉が非常に浸透してから、もう何十年も経ってます。グローバルと言ったり、いろいろあると思いますが。
- 市長のお話に出たように、ICT を使いこなしたり、IT とか、いろいろ分野、プログラミングとかを伸ばしていく話であれば、もう世界一を目指すのであれば、そろそろグローバル人材を育みますというタイトルも、別に英語をないがしろにする意味ではないんですが。
- 大きな方向転換ではないですが、大事な方向性を示されてもいいのではないかと思っています。
- 具体的にという話ではないですが、先ほどスクールロイヤーの話が出ましたが、私は自身が弁護士してますので、弁護士がいろいろなところに出向して活躍してるのを見ていて、やはり専門家が組織の内部に入るというのは、すごく大きな影響力もあり、効果もあるというのもわかっていて、例えばまだそこま

で至ってないかもしれないですが、内部に弁護士が長年いると、外部にいる弁護士をどう使ったらいいのかなど、やはり上手になってくる。

- 今、例えばITの話などをすると、コンサルに頼む、業者に頼むなどで、内部に専門家がいないままお願いしているので、たまたまそういう人材がいたらいいと思いますが。
- 市長にそういう意識があるから、副市長を公募するときなどに、こういう人材が欲しいと言って選ばれたのは、多分同じだと思うんですが、こういう分野の専門家を内部に入れて、その人にやってもらうだけではないですが、外部の業者を上手にコントロールしてやっていくことに取り組んでいかないと、何となくこう横並びの同じような話になっていくと思うんです。
- 私は是非、まず学校教育でグローバル人材を育みますという言葉を変えていただいて、何かもう１つ追加していただいて、本気でそれを取り組んでいくとしないと、どんどん取り残されていくと思ってます。先ほど教育長と話にあったタブレットを１、２年生にどうするといった小さなところも大事なのかと。小さなという言い方でいいのか、大事かもしれないが、もう大きなところでそういうことを推進していくことも検討していただきたいと思ってます。

（箕面市：原田市長）

- これ訂正させていただきたいんですが、グローバル人材を育みますというのは、私になってからこれ大項目として、もちろん小項目の中にグローバル人材という言葉はあったんですが、過去を振り返ってみましたら、やはり学校教育の部分は、子どもたちの生きる力と繋がる力を育みますという、藤迫教育長肝いりの言葉が入っていて、倉田哲郎さんの時にも貧困の連鎖の根絶とか、グローバル人材に特化した内容をこの大項目に入れるってのは結構勇気がいる。
- 先ほどの議論になりますが、いや国内に居続ける子はどうするのかがあったんですが、それは国内にも外国人人材というのはもう入ってこられてるし、日本の国際化がそもそも進んでるので、国内でもグローバル人材だということです。
- グローバル人材を育みますというのは私になってから実は強い思いで入れておりまして、もちろんグローバル人材という言葉がもう手垢のついた使い古された言葉ではあるんですが、先ほどの荒木委員の質問の回答に通ずるところがあるんですが、やはり見直しとして、この英語の部分をしっかり伸ばしていきたい、文化理解・多文化交流といったところにも力を入れていきたいし、そういった意味で、今回グローバル人材というのを大綱に入れさせていただいた、今までにない強い思いがあってチャレンジとして入れさせていただいているので、ご理解いただけたら。
- また厳しいご意見いただいたとは思ってはいるんですが、グローバル人材は別に英語が話せる人間がグローバル人材というわけでもなく、もちろん世界のかたに日本のことを説明するときに、日本の文化もしっかり理解してないと説明もできませんし、自分を表現する力もないといけません、コミュニケーションスキルもないといけませんとか、いろいろなものが何か含まれてる、いい言葉だと思って、使わせていただいてます。
- ご理解いただければと思ってますので、ICTの人材はもう本当に課題で、市役所のICT化、DX化を進める時も本当に課題です。どこの市役所も、人材がいない

ので、大阪府の人材をお借りしてる状況がありますので、課題だというふうに思っていますので、いつも ICT に対して厳しいご意見をいただき、胸が痛いと思いながらも、ただ何か一方で、私この ICT を伸ばせ伸ばせと言ってはいるものの、ファーストペンギンになる必要があるのかなとも思って、その ICT の分野については、やはり 1、2 年生どうするかみたいな話も、蓄積されたものが、まだ何か十分足りてないのではと思っていて、そうであれば、どこかで成功したものを持ってくるとかして、成果が約束されているものを導入するという発想もあるのではないかと。

- ICT をどんどん進めるというところが結構怖くて、良い面もあれば悪い面もあるという中で、思い切って飛び込めてないというのは事実としてありますので、そこは慎重になっている部分はあります。少し言い訳っぽくなりましたが。

（箕面市教育委員会：酒井委員）

- グローバル人材で失礼しました。
- やはりみんながどう受け取るかというところもあり、多分、市長が考えてるのは本当に世界に出ていって、英語はもちろんのこと、そういう技術的なこととか、いろいろなものも使いこなせる人材をという趣旨だとは思っていますが、やはり、土台の部分と伸ばしていく部分というのがあって、土台の部分というのは今まで積み上げてきたものとか、今ある環境でできる部分はあるんだと思うのですが。
- やはり慣性の法則じゃないですが、やはりここをやるんだという、ぐっと引っ張るリーダーシップがないとできないこともあると思う。
- この技能の英語教育も、多分始まったときはすごくそういう力が働いて、みんながそれについて行ったと思うので、何かそういう部分は IT の話とかするときに、システムの話とか何かいろいろごっちゃになるのですが、僕はもうその教育の観点に関しては、もっともっと新しいものに触れてもらって、子どもたちに刺激を与えていくというだけでも、今後伸びていく。
- 人材が出てきたりとかはあるのかなと思いますし、まさに体力向上の件も、学校でやるだけで体力伸びないから、意識を変えて家とかご家庭でもやってもらうというようなことは、同じように、こういうことも何かで興味を持ったら自分で習い事行きたいって言ってみたり、自分で勉強したりという話があると思うので、啓蒙活動みたいなところもすごく大事なのかなとは思っています。
- だから全部学校で教えていただいて、こうやってやるんだよというのではなくて、そういう刺激を与えてあげるようなことも大事かなと思う。

（箕面市：原田市長）

- ちょっと渡りに船ではないんですが、新しいことを言うような話の中で、話題提供じゃないですが、この間、皆さんに相談してた。
- これから絶対、教員の不足という状況が深刻化していくと思ってます。どこも人手不足の中で、教員不足というのは起きてくる。教室の学びのスタンダードというものを作って、教員の当たり外れをなくしていくというような取組をしているものの、それも限界があるだろうと思っていて、これからもこの箕面の教育の質を保っていくときに、どうしていけばいいかというのはすごく悩んでます。今さえよければ、それでいいのではなくて、これからも未来永劫、質の

高い教育を提供していくために、人材不足とどう向き合っていくかという時です。

- オンラインでフィリピンやトゥイグレンスクールと交流してますが、例えばそのオンライン授業を例えば中学校で導入できないのか、というのはずっと考えていて、もちろん今の先生をなくせという話ではなく、例えばコロナ禍なんかはオンライン授業が始まって、もっと広がっていくかと思ったら広がってないんですけど。
- 例えば教えるのが上手な先生、別に箕面の先生でなくてもいいのかもしれない。もしかすると、このカリキュラムに沿って教えるのが上手い先生が授業をする動画を、全校で流す、中学校全校で流すと。授業時間を全部それに変えるという話ではなく、例えば 20 分なり 30 分なり必要な部分を流して、残り時間で専門の先生がそれに基づいて、自分で考えた授業をするなり、オンライン動画を流した授業に出された課題を後ろからサポートしたり。できてない子、一人一人と向き合うとか、例えばそういうオンラインで授業して、必要な部分は教えて、既存の先生は一人一人としっかり向き合う時間を作っていく。
- それにより、例えば教材の準備する時間なんかも削減できて、働き方改革にも繋がっていく。そして一定の指導の質は担保できる、そういう講座、例えば中学校でそういうことが、できないかなというのは、頭の中では考えていて、もちろんこれを導入するとなったら、すごいコペルニクス的転回というか、今までないような取組をすることになるので、現場の反発なんかもあるかもしれないんですが。
- どこかで人が減っていっていく中で、教育の質を保つということは、考えていかないといけないと思っています。今も講師が足りないという状況が出ていますので、そういうオンライン授業なんかも視野に入れながら、検討していきたいと思ってます。
- ただ繰り返しになりますが、子どもたちに不利益が生じてはいけないし、子どもたちを実験台にも使いたくないので、しっかりと成果が上がるという前提で、導入は検討したいと思っています。
- 今すぐ導入するという話ではないのですが、そういうことも検討しないといけない段階にきてるのではないかと思ってます。それを例えば持って帰っていただいて、家庭学習に使っていただいたり、わからなかったことを何回も動画で見返したりとかもできるわけです。不登校の方に対する授業も、質も上がっていくのではないかと思ったりしているので、そういうことも考えていかないといけないのではないかなと、私は課題意識として持っています。

（箕面市教育委員会：藤迫教育長）

- 先ほどの市長のファーストペンギンでなくてもいいのではないかに乗っかるのではないですが、市長がこの前話されてたので、担当室長にその先行事例、本当にあるのか、ないのか。あったらどんな課題があるのか、一時流行った反転授業なんかも、市長に言ってる意向に近いですね、家で先に宿題として授業を見て、学校に来たら、もういきなり議論、先生質問といった反転授業も今言ってるのには近いと思ってるので、とりあえず今の段階では、おそらくそんな真似をしたくなるようなすばらしい事例は私はないと思っているんですが、そうは言うものの、調査は進めてます。

（箕面市教育委員会：飯田委員）

- 市長から中学生はという言葉が出たのがよかったと思ってるのが、やはり小学校の時というのは、基礎学力が人間のベースになってくるので、そこはありえないなと思ってたのですが、どこかの中学校のタイミングで、民間であればｅラーニングで勉強するような感じで、一旦もらい、その子に合わせた進路で勉強していくっていうのは、ありなのではないかというのは１点思います。
- 人材だというような切り口ですが、私はどちらかと言ったら多様化、子どもたちの個別最適化の勉強する時に、それこそ、できすぎることとか、逆に落ちこぼれとかの部分が、やはりもう、ないがしろになってる部分。それを ICT を使うことによって、カバーができるのであれば、ありかなというところはあります。
- ただ、先生自身の考え方が、一方で教えてあげるんだというので、教員をされてるかたが全然違うファシリテーターなんだと、伴走者なんだという考え方をガラッと変えてもらわないと、形にならないのかなと思うのは思ってます。
- それとやはり、民間の塾の先生たちがどう考えて、子どもたちを教えているのか。公教育の先生たちも、一旦そこも聞いてみて、何か、どういうアレンジをすればいいのかという時間も要るんじゃないかとは思っておりました。

（箕面市教育委員会：桑野委員）

- 動画の話を聞いて、使い方のような余地は、失礼な言い方、あるなと思っています。
- それで中学と話されたので、少し意外だったんですが、今６年までは教育専門監、市で５人ですか雇用されてて、元先生で授業のできる方々が学校に所属して、私が前にいた学校では、3 人まで見ると言って授業を見て、また示範授業もしていた。
- だから、そういう５人の教育センターまたは教職員人事室の所属ですか、そういう方々が、ここは理解が難しいから、こういう動画を作ろうかと言って、45 分ではなくて、もっとポイントを押さえたものを作り、行き渡らない先生方に向けて、何年度どこの単元みたいなことで、活用されて動画作成していただいたらいいのになと、今聞いて思っています。
- 中学校というお話が出たので、これ残念なことに中学の教育専門監はゼロなんです。
- 教科の壁があるとずっと昔から言われてますが、教科に絞ってでも、教育専門監を作られて、特に全国学テの成績などを見て、この教科という例えばターゲットを見つけて、活用していかれたらいいのではないかと。
- オンラインも不登校の子どもも、画面オフで名前も変えて授業に入ってる子もいてましたので、いろいろな活用の仕方は多様だなと、飯田委員が話されたけど、思います。だからその前に手つかずで、もう小学校の教育専門監だけでも何年過ぎただろう、４、５年ぐらいですか。ですので、もっと多くの教員が享受できるような働きをしていただく必要があるのではないかと常々思っていたので、小学校でもやり方によっては可能では。

- 中学は教科を絞って、弱いところにポイントを当てて、データ分析を学校教育室もされてるし、ダッシュボードで個別最適化のケアもしている。その徹底が次の段階ではないのかと思います。
- ですので、もうそうすると全国学テをもっと伸ばすという指標になるものが、よりてこ入れされて、いいのではないかなと思いますので、教育専門監が授業力のあるかたということは、周知されていますので。
- そうだなと思われると思うので、だからどの学年、どの単元、そして 45 分のうちの半分は長いと思いますが、それから家で見といてというのは、個人差が出るので、うまくいって半数も見てくれないと思います。ですので、授業中に活用して、それを持って帰ってもう 1 回見れて、あそこのわからなかったなとかに使えば、有効活用として、考えられるのではないかと、今のお話に限って言えば感じました。

（箕面市：原田市長）
- ありがとうございます。桑野委員には絶対反対されると思ってましたので、前向きな言葉をいただけて大変ありがたいです。確かにいきなりすべての中学校で全教科から導入するというものでもなくて、スモールスタートで例えば難しい単元から、この教科から試行的に始めるとかはできるなとも思いましたし、教育専門監は持ち帰らせていただいて検討させていただきます。
- やはりこれからの箕面の教育の質をずっと保っていくにはどうしたらいいかという切り口で考えてたんですが、委員のご指摘のように、確かに個別最適化にも繋がっていく取組だというのは、その通りでありますので、検討をしっかり進めていただいて、子どもたちにとって良いなら導入しますし、子どもたちにとって良くないんだったら導入しません。ただ、検討はしないといけないかなと思っていますので、しっかり検討していただいて、どうするかを考えていきたいと思っています。ありがとうございます。

（箕面市教育委員会：高橋委員）
- 高橋です。先ほど話のあったグローバル人材で、酒井委員が話したように、確かにグローバル人材という言葉が持つイメージというのがありますから。本当に我々が教育で育て上げた人材とまた異なるものになってるのかなとは思いますので、今後この文言改めてもいいのかなと思います。
- 一般的にというか、グローバル人材は多分、海外でも活躍できる人材、割と日本側から外向きな視点のイメージですが、私が思うグローバルな人材というのは海外から日本に活躍の場を求めてやってきた人たちと共生できるような人、結構これからそういう人の行き来が激しくなる時代で、カオスな時代の中で生き残れる人、そういう人を育てていかないといけないと思ってます。これは出るだけじゃなくて、受ける側という意味でもそうです。
- だから外国人労働者の増加で、各地にハレーションが生まれているのも、まさにこういう教育をしてこなかったんだろうなと思ってますので、むしろこれまで以上にこういう人材を育てていかないといけないと思います。
- グローバル人材という文言自体は、確かに変えて、何か新しい箕面流の名前をつけてもいいのかなと、変えてもいいかなと思います。

- ICT に関しては、いろいろと様々な意見もありますし、いろいろ研究もされてますが、やはりその適度な使い方がまだ確立されていないというところで、市長が懸念されてる点も、ごもっともだとやはり思います。
- すべてを ICT 化する、IT 化してしまうことに対する恐れも当然ですし、やはり物をメモとかするのにも、こうやって私もパソコンでタイプしていろいろ今話すこともしてますが、鉛筆で書くのとタイアップすることで、いろいろまた認知的には影響が違うみたいな研究もあるみたいですから、どこまでを ICT 化していくのかってのは、まだまだ研究の途上はわからないとこがあるものの、やはり使えるとこは使っていこうと、妥協するべきところは妥協しながらも、何とか前に進めていってると、こういう議論をすること自体が本当に意味があるなと思ってます。
- あとは、複雑多様化する学校現場に対応した学校支援とか、ついでの話になったが、外国籍の子どもが必要だし、結構この総合教育会議の場で、毎回話させていただいてますが、やはりこれまで箕面に在籍されてた外国籍の児童とはまた異なる経緯で、例えば親の在留資格が今までと違う。
- 今までのような技人国の在留資格で来られてた、お父さんお母さんが来られたとこの子どもではなく、いわゆる労働系の在留資格です。特定技能の在留資格でお父さんお母さんが来られてるところの子どもたちとかの家庭の質は、全然異なるわけです。
- 全く日本語がわからないまま、そういう労働者に対しては日本語教育とか日本語のレベルは課せられてますが、家族に対して一切課せられてませんから、全くわからない子に一気に来たりするわけです。
- やはり技人国は、その点は考慮するので子どもに教育してから日本に連れてこようとかありますが、実際私が自分の仕事を手がけている人たちの中には、全く教育させずに連れてきてる人たちもいるわけです。
- 翻訳機を利用するのは、非常に、生活上での摩擦を緩和するという意味で効果的だとは思うんですが、その子どもが全国学力テストを受けたらどうなるのか、0 点かなと思うわけです。
- 箕面の学力を向上するという観点からも、こういった子どもの学力をいかに伸ばすかという、これは全国各地の市町村で同じ問題を抱えてる中で、箕面がここにしっかり着手することでです。他市との差もつけられるのではないかとは思ってます。時間もあまりないので、このぐらいで終わります。

（箕面市：原田市長）

- グローバル人材については、高橋委員が話していただいてる意味も含んでる言葉だと思っていたんですが、海外で活躍する人材と見られかねないので、用語は酒井委員からもご指摘があったので、検討をいたします。内容としては、そういう人材も含んでる言葉でありましたので、ありがとうございます。
- 私からもいいですか。まず ICT のところで今回、子どもたちの情報活用能力はどの程度育成されたかを調査し、評価改善を行うことで、継続的・系統的な情報活用能力の育成を図るということで、まさに ICT、ICT と言ってますが、どれぐらいできるのかという評価を新しく始めます。その経年もしっかり見ながら、可視化していくのはすごく良い取組だと思っていますので、また今後どれぐらいできたかというのは、しっかり見守っていきたいと思ってます。

- ICT 機器の情報モラル教育を推進していくということを書いていただいています。先ほども話しましたが、保護者の納得感というのはすごく重要だと、やはり家庭でいろいろルールを決めてる中で、学校では野放しになってるとか、いろいろな声をいただきます。アンケートも取ってるかもしれないですが、やはり、低学年でも ICT 機器を導入して効果がすごく高かったとか、低学年でも導入してほしいという保護者の声が 8 割ありますとか、そういう内容を保護者にも伝えて、納得感を得えられるようにはしてほしいと思ってます。低学年からも取り上げないということでしたら、効果があるということとか、保護者のニーズが高いんですということを、保護者のかたにも伝えて、納得感を得られるようにしてほしいと思っていますので、よろしくお願いいたします。
- 学校に録音機能つきの電話を導入する等の件は、市役所でカスハラ対策強化したというところも踏まえて、学校現場であったり、指定管理施設にも同様の対応を求めて、今回こういうことをやっていただくが、これはきっと教師であったり、学校が悪いことも、絶対事例としてあると思うんです。
- 市役所職員が悪いケースも絶対あるだろうと思ったから、市役所職員を QR コードか何かでちゃんとレビューして、市役所職員の対応が悪かったから激高したとかいうケースも絶対あると思っていますので、すべて保護者が悪いからカスハラ対策をしっかりやるというものでもなくて、絶対、保護者のかたも正当性があって、学校の不手際とか教師の不手際っていうのもあると思いますので、そういうのを見逃さないようにしないといけないと、こういう取組を強化するときに思いますので、そちらの方も目を配っていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
- 読書習慣を今年、市制施行 70 周年で、市民の皆さんにしっかり図書館で本を借りて本を読んでもらうというのを進めていきたいと思ってるんですが、アートも船場にパブリックアートを置いて、アートに触れるまちづくりというのを進めていくんですが、学校現場で読書習慣を持ってもらう取組だから、今も学校司書さんが頑張っていただいて、子どもたちに興味が湧くようなものを展示してくれたりとか、本当に工夫して行っていただいてるんです。
- 今、国語力が課題があったということも踏まえて、読書習慣を今まで以上に高める取組を具体でどういうことを考えているのかということと、例えば船場にパブリックアートできたら、学校の校外学習でアート作品を見に行くとか、そういう文化芸術を学校でどう生かすのかというところも、何か考えてることがあったら教えてほしいと思ったりしてます。

（事務局：新井室長）

- 読書習慣の取組についてですが、すでに各校で読書週間を設けて、図書館司書はもちろん、読書委員の子どもたちがどれぐらいの本を読んだかとか、こんな本が面白いですという紹介とか、非常にそれぞれの学校で工夫した取組をこれまでもしてきております。
- ただ、さらにというと、読書ノートのほうが大阪の図書推進協会というところだったか、そういう読書ノートを発行されている情報も得ましたので、文化国際室ですか、包括連携を結んでいると聞いていますので、今その読書ノートが、来年度初めにおそらく案内があるところまで情報収集していまして、いろいろな方法で過去もやってるんですが、改めて読書ノートというものを活用し

て、子どもたちが、自分でそこはアナログなんですが、ノートに自分で読んだ本の感想とかを書いて蓄積していく、というような形を少し進めていけないかなと今、考えております。

（箕面市：原田市長）

- 市長部局に生涯学習、社会教育が来るんですが、パブリックアート数点、万博のパブリックアートを置いたりとかしますので、ぜひ学校教育でも、今、そもそも公共施設に、小木曽室長に頑張っていただいて 250 点以上のアート作品、市民の皆さんの作品があったりとか、何かこう学校現場でもそういう文化芸術に触れるような取組もぜひ連携させてほしいと思っていますので、要望しておきます。
- 読書ノートみたいなものを無料で頂いて、私、読書ログをつけるって、すごくやる気になるんです。例えば今年 10 冊読むといった時に、今 5 冊読んでるみたいな読書感想文。簡単な読書感想文とともに何か残してたら、次はこの本を埋めたいみたいな感じで、10 冊読もうみたいな感じになるので、何か読書習慣をつけるために読んだ本を記録するのは、すごく大事なことでありますので、ぜひ無料でいただけるものを活用しながら、学校現場で使ってもらえたらなと思っています。
- 市制施行 70 周年にあたって武蔵野市を抜くぞと、市民の皆さんを巻き込んで、読書、本を図書館で借りてもらう中で、学校図書館が中央図書館から借りてもらうのも結構な数があるので、今まで以上に借りてもらえたら、より高みに近づくと思ってますので、学校現場でもより借りてもらえるように進めていってほしいと思ってますので、よろしくお願いします。

（箕面市教育委員会：桑野委員）

- 彩都からモノレールを使って船場図書館に行ってます。司書さんのお話等を受けて、今度から来てみようかということもありますし、中央図書館にもたくさん行かれてますので、学校も特定の学年ですが、そういう出会いはしているということと、それから市長もご存じと思いますが、船場のまちづくり協議会の代表さんが先日、子ども未来会議で、船場図書館をどのようなものにしていきたいかっていうのを、最初は子どももいたんですが、市民の方々とか、箕面市の子どもたちに向けて、地道な取組だと思いますが、行っておられて、市教委の協賛があるのか詳しく知らないが、やはりどんどん案内いただいて出向いていったりして。
- 見知るということが、次の行動に繋がると思っていまして、アートのことも中学校を卒業して、そのまま障害者事業団に入ったり、そよ風の家、ゼロの家とかで仕事をしている方々もいますが、そういったかたが本当に感性豊かな作品を描かれているということで、船場まちづくり協議会のかたがそういう施設に出向いて、その作品を市民のかたに見ていただく働きかけをされているということも聞いていますので、中には企業のかたが本当にすてきな作品だなということで、何か買っていただいたことも聞いていますので、本当に有名な方々の作品も見る機会が出向かないとないのが、そこへ行くとあるというのもすてきだし、そしてまた箕面市内にお住まいのいろんなかたの作品とか、今サンプラザが工事中ですから、あそこで子どもたちの作品展、教職員の作品展もずっと

やってきたので、市民のかたに見ていただくという貴重な機会と場所だと思いますので、大いに活用していただいて、アートのまちというのが、すべての方々にとってそれが認識できるものになればいいと思っている次第です。

（箕面市教育委員会：荒木委員）

- 2026 年度の教育大綱について、2025 年から比べたら、今までやってきたことを深めていく流れで見てたんですが、子育て施策のところは、触れてなかったので、1 点だけ市長にお伺いしときたいのが、待機児童ゼロの実現というところで、なかなか他市でも見受けられない、実現してるところもないと思ってるんですが、来年度からこども誰でも通園制度が始まったり、サンプラでちょこっと保育が始まる。何か柱にしたら、より世界一に繋がることにもなるので、待機児童ゼロ、保育士の確保については 2025 年と同じ文言なんですが、確保について、計画的採用という中でどう確保していくのかをお伺いします。

（箕面市：原田市長）

- なるほど、厳しいご指摘だなと。世界一を目指す中で、その受け皿が用意できてないのは、スタートラインにも立ててないと私自身すごく反省をしていて、保育士確保策で補助金を出して、198 万円という大阪で一番の補助金額を出したりとか、5 年働かないとお支払いしないものを 3 年に緩和をしたりとか、そもそも知られていなかったんだということを知って、しっかり広報させていただいたりとか、使っていただいてるかたの声も聞きながら、より使いやすい、より魅力的な制度にしていく取組を行っているものの、代表質問等でも答弁させていただいたんですが、子育て支援策を充実すれば充実するほど、本当に子育て世代から選ばれるまちになっていて、そしてまた定員、待機児童が生じる恐れもある状況が生まれているという、イタチごっこみたいな状況になっていますので、本当に苦しい状況で、こんな状況で世界一と言っていいのかというところを、本当にもどかしく思っているような状況です。
- ただ手をこまねいていいわけでもなく、私自身も引き続き、保育士さんを養成する学校にも、私自身も直接うかがわせていただいて、箕面の魅力を伝えていって、箕面で働きたいというかたも増やしていくしかないと思っていますので、そこはしっかり私自身も箕面の子育てであったり、箕面で働くことの魅力をしっかり伝えていきたいと思ってます。
- 今回、公立保育園がそもそも廃止もしくは民営化するという流れの中で、認定こども園、そして 0 歳からの認定こども園として、2 園しっかり存続させていくという方針も進めさせていただいていますので、市としてもちゃんと責任を持ってやっていくという姿勢を示せているとは思っていますので、なかなか保育士不足というのは、一朝一夕にはいかないですが、引き続きできることは何でもやっていくしかないと思っています。何か補足ありますか。

（事務局：今中部長）

- きちんと予算もいただいて、取組を進めていますが、やはりなかなか保育園も 50 数園で個別な事情もあり、制度をご用意してるが増えていかない。
- 職員を雇っても、同じだけプラスマイナスで辞めていく状況もありますので、充足しているところとそうでないところ、引き続き、1 つ 1 つ個別の課題もしっ

かり聞いて、着実に１人でも増やしていくと、かなり保育を必要とされるかたが増えているという現実があり、それだけ皆さん、働き方も増えてますし、就学前の子どもは残念ながら少し減ったり、横ばいですが、保育を必要とする率はものすごく上がってきている。

- やはり個別の園と話をして、私たちも来年については、今まで通りではなく、少し大胆に、抜本的に手を打っていかないといけないと考えていますので、今具体には話せませんが、１人でも保育を必要とするかたを案内できるように、きちんと報告できるように頑張りたいと思っています。

（箕面市教育委員会：藤迫教育長）

- もう少し事業者に当たる施策がいるのかなと分析してます。
- 先ほど話題になった部活動の受け皿が、ヒットしていると思うんです。それは何故かと言うと、その事業の受け皿は受入れる団体にもメリットがあり、我々が多く手を挙げてほしいというのと一致してるんです。だからヒントになると思います。
- 今は何かというと、保育士さんに光が当たってて、保育士さんにはお金もらえますよ、お金もあるやつはヒットしてるんですけども、我々が一生懸命言ってるほど、事業者さんはどこまで思ってくれているかということです。
- だから定員を仮に、例えとして本来は 100 名だが、保育士がいないから 70 名でいい、別に困らないと、なってるのではないか私は疑いを持っている。
- だから保育事業者さんも頑張って、保育士を教育委員会、市の予算だけに頼るのではなく、もっと保育士を雇えば定員も増えるし、我々もメリットあると、ぼうっとしてるより減らしても、別に困らない。市は困ってるみたいだが、ではなく、みんなが頑張っていく仕組みを考えないと、今は保育士さんだけにスポットが当たってる感じがする。それは今中部長と前から言ってるが、何か必殺技がないので、考え方を保育事業所にシフトするのも、今回の部活のいい例だと思っている。

（事務局：藪本局長）

- たくさんのご意見ありがとうございました。
- 箕面市教育大綱実行計画 2026 につきましては、最終案をまた公開させていただきたいと思っております。
- 続きまして 3 つ目の議題、令和 6 年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」の報告と箕面市の状況についてに移らせていただきます。
- 本件は、文部科学省初等中等教育局が令和 7 年 10 月 29 日に公表いたしました児童生徒の問題行動等に関する調査結果の概要について市長に共有するとともに、本市の現状についてもあわせてご報告することで、首長及び教育委員会が認識を共有し、今後の対策の検討を円滑にすることを目的としています。
- それでは資料 3 に基づきまして、事務局から調査報告と本市の現状につきまして、ご説明を簡単にさせていただきます。

（資料３に基づき事務局から説明）

（事務局：藪本局長）

- 本案件は箕面市の現状を共有するための報告案件ということでございますけども、何かご質問ご意見などはございますでしょうか。市長お願いします。

（箕面市：原田市長）

- この資料は最初 2 ページまでしかなく、3 ページ目を追加で作っていただきました。
- 2 ページまでの資料を見て、暴力行為の発生件数、いじめの認知件数が多いのは、いじめの認知件数については、それだけ積極的に調べていってるからですが、いじめが認知されてる件数ですので、この暴力行為といじめ認知件数が多いのは悪いことであるという状況なんですが。
- 長期欠席者数と不登校生徒数は、数が多いことや増えていることがイコールすなわち悪には繋がらないと思っていて、この間の教育委員会議、教育会議でも議論させていただきました。学校に行かなくても、家庭でしっかり学べてるとか、親御さんが教えてるかわかりませんが、そこでしっかり学習の質量を保ててるとか、社会性を取れてるとか、そういう状況があれば、学校が合わなかったというだけでいいんですが。
- 問題は、この数の中で支援に繋がっていない子がどれぐらいいるかがすごく重要で、だからこの数だけでは、なかなか読み解くことができない。
- 今回、学校に行ってる数が 10 日以内とかで一応、定義づけたんですが、10 日以内の児童であっても、学ぶ場とか社会性が担保できてる場があるんだったら、問題ではないと思ってる。
- 問題なのは、その支援の手が行き届いてなくて、全然、学習指導要領に基づいた内容を履修できてなかったりとか、複数の子どもたちがいる場で社会性が養われてないとか、そういう支援が必要なのに支援が行き届いてないかたがどれぐらいいるかが知りたいと思ってます。その辺はどう考えてるのかと思って、この 10 日以内の児童生徒数が、イコール支援に繋がってないわけでもないですか。
- その辺の評価はどうされてるのかというのを教えていただいていいですか。
- 本当に、誰か手を差し伸べないといけないのに手を差し伸べられてない子どもの推移とか、状況はどうなのかが知りたいです。

（事務局：赤城室長）

- まず 10 日以内というところで、1 つ学校との接点が極めて低いと。ただそれだけをもっていいのか悪いのか、他のところでその子が学習していればというところで、もう 1 つ、その中で学校の方でその成績的なもので評価できるのかというところも 1 つフィルターをかけまして、こちらについては、学習指導要領上の学習というところまでは、残念なことかもしれないが、それぞれがまだ至ってないと。
- ただ、なかなかその家庭の背景、またその子の背景によっては、なかなかこちらとしては、学習の方にもちろんつなげていきたい、学校としてもつなげたいのですが、なかなかそこにまでは少しハードルが高いということで、心理的なカウンセリングであるとか、あと、うちの方へのてこ入れをまずする。

- またそこについても、いろいろな家庭の駆け引きであるとか、あまり強く押しますと家庭との関係も切れてしまうところがあるので、学校であるとか、関係機関を作成し、作戦を練りまして、ここは少しこの機関で押すが、学校はあまり押さずに。同じように押すと、もうプチッと向こうから切られてはいけないので、そうしています。
- SSW もいますので、ハブとなって、ということでするかですので、市長の話されるような教育課程で、例えば算数が三重丸だとか、国語は４だとかではないですが、少なくとも子たちを放置しているのではなく、何かできるところというところで、支援、それは学校だけでしてるのではなく、今挙げた層の子については、全て学校以外の専門家であるとか、機関が繋がってますので、一丸となって、本人であるとか、家庭に対してアプローチをかけているところです。

（箕面市教育委員会：荒木委員）
- 目を背けたくなる数字ですが、SNS の背景も大きいと思っています。子どもたちはやはり孤立できる状況、孤立しても SOS を出せる状況というのは、やはりすごい SNS の中にあると思ってるので、他国の 1 例で言うと未成年を SNS 禁止するというところもあるが、全面的に禁止するのは、ICT の観点からもよくないかもしれないですが、SNS だけ。
- やっぱり多方面からもう攻撃できるというか、自分も守れるけど、攻撃もしやすい状況になるこの状況は現実の社会なんで、どうしようもないとは思うんですけど、こういったことはやっぱりいじめとかにも繋がってる状況なんで、その辺ちょっと主張的にもその SNS を未成年、小学生でも今 Tik-Tok やったり、インスタやったりしてる状況で、そのへんの考えを少しお聞きしときたいと思ってます。

（箕面市：原田市長）
- ありがとうございます。私自身も子どもを持つ親として、SNS からは遠ざけたいと思ってますが、なかなか、もう学校現場ですでに広まってる状況の中で、先ほどの桑野委員の言葉をお借りするなら、うまく付き合うということが大事です。その危険物を排除しても限界がありますし、やはり正しく付き合っていくというのが重要なんです。
- ただ今、そうは言うものの、では何ができるんだというところは、かなり難しくて、私であればその子どもに携帯を持たせないでおこうとか、その家庭の対策によるところも結構あったりするので、他のまちであればそういう SNS やゲームとかを子どもたちにさせないみたいな条例化をしているところがあるんですが。
- 箕面の子どもたちや家庭の皆さんの民度に期待したいというところかと。なかなか、そこまで行政が強制力を持って SNS を遠ざけるというのが、本当にいいまちなのかとも思ったりするんです。であれば、我々としても正しく付き合うための啓発をしっかりやっていく、SNS 上のいじめもしっかり無くしていくという取組をしていく。それこそスクールロイヤーによる事業で、こういうのが名誉毀損になるんですとか、そういう取組を進めることこそ必要かなと思ったりします。

- ただ、度を超すような状況があるのであれば、もう1、２年生からタブレットを取り上げるとか、そういうことも考えなくはないんですが、SNS については少し家庭教育に期待したいとは思っています。少し十分な答えではないですが。

（箕面市教育委員会：荒木委員）
- やはりそういった授業もあり、講習、研修、教室とかも行ってるのを聞いてるので、学校に結構クレームに行くことも聞いてますので、学校だけじゃなくてやはり家庭と地域であったりとか、支援の繋がりをやはり１つの繋がりとして、もっと研修というか、子どもたちにわかってもらえるようにしないといけないと思ってますので、市長も引き続きよろしくお願いします。

（箕面市教育委員会：桑野委員）
- 先ほどの不登校の話ですが、いろいろ思い出す事案があるんですが、放っていて、一切連絡が不通であるということは、絶対にないと私は思っています。過酷な状況も多々ありましたが、お子さんがもうぷっつりと来なくなると、そうするとトラブルかとか、いろいろやりますよね。
- いや、そうでないと、燃え尽き症候群のような、なんかものすごい頑張ってたのにプツリということで、そういうことをリサーチしたり、それからあとは保護者さんへのアプローチです。事案として、もう昼夜逆転も激しく、本当に保護者さんが子どもさんに合わせて、夜中にご飯作るみたいな例もありました。お母さん、お父さんと繋がって、一緒に見ていきましょうという支えもします。
- その時に市のカウンセリングを紹介したり、課題があるかなという場合は市立病院のドクターを頼りにアドバイスいただいたり、それから SC、SSW、あらゆる手だてを講じて、ご本人に会えないことが多いので、保護者さん周りのかた、親戚のかたまでリサーチしてお会いしてサポートしてました。
- 一貫校にいましたので、4 年生からそうなって、あと 7 年生からも、ところが卒業にあたって、ようやく家庭訪問も連続して、担任もしてますが、ようやくご本人にお目にかかれることができて、やはりそれだけの時間が必要だったかなと思いました。市の方からはとにかく現認しなさいと、動画とかでは駄目ですよと、目で確認しなさいと言われれば確かに。それで物干し台から手を振るところまでいけまして、卒業証書を持って家庭訪問に行ったら、もう親御さんが喜ばれて、ここから学習とかどう生きていくのかとかを、9 年生が終わってようやく考えられるようになった、というような事案もありました。
- 本当に様々な多様な方々に、もう絶対諦めずにやっているので、学習がどこで入るかということももちろん見極めています。
- 今はそうではないなと。近くの公園までは行けるという、子どもがいて、そこから少し足を伸ばし校内支援センターの支援のいるサポートルームに行けるか。いやでも人目があるといけない。放課後とかで少しずつアプローチを増やして、最後は英語が学びたいと言って、専門学校を受けました。
- ですので、皆さんどこで学習に出会うか。将来の方向を考えるかというのは様々なので、なかなかこういうペーパーに表れにくいところですが、やはり教員としては、学校現場としては諦めないで、つながれるところがないかとすごく模索します。

- ですので、ここに表れてる数も模索されている数と私には映るので、学習ももちろんですが、そこにまだ到達しない生活習慣とか、生きる力、生きる力がなかったら学力とか言っても両立しないので、ですから、どこで向くのかというのをキャッチして、保護者さんと学校が今やっていう時に、適切に提案をする繰り返しだったと考えますので、ここに表れてない部分を少しお話できればと思っています。でも諦めない。

（事務局：藪本局長）
- それでは最後の議題にあります 4 つめの議題です。「業務量管理健康確保措置実施計画策定の報告について」に移らせていただきます。
- 本件は令和 7 年 6 月に「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法」いわゆる給特法が改正され、教育委員会は文部科学大臣が定める指針に基づき働き方改革に関する計画を策定することが義務づけられたことに伴い、その内容を本会議の場において市長にご報告するものです。
- それでは資料 4 に基づき事務局から簡単に報告をお願いいたします。

（資料３に基づき事務局から説明）

（事務局：藪本局長）
- 残り 5 分程度しか時間ありませんが、何かご意見等ございますでしょうか。

（箕面市教育委員会：荒木委員）
- これ本当に強く言っておきたくて、不登校であったり、いじめであったり、教職員の質というのは、やはりこういうところに繋がってくるというのを、改めてこの資料を見ながら思いました。
- なので、先行投資というか、箕面市の教育が持続可能になるように中長期的な財政の投資はしていってほしいです。教職員に向けて今やっていただいてますが、そういったところも含めて、継続して見守っていってほしいと思いました。

（箕面市教育委員会：飯田委員）
- 簡単に、このストレスチェックの実施率が 37.4%というのは低すぎるので、各自自分の健康管理とかスケジュール管理というのは、今一度見直していただきたいです。

（事務局：藪本局長）
- 残り時間本当に限られておりますが、何か最後、市長もしくは教育委員皆様から、何か施策全般について、ご意見等ありましたらよろしくお願いいたします。

（箕面市教育委員会：桑野委員）
- 地域クラブの１年前ぐらいから始まって、このスピードでいろいろ準備していただいたと思っています。まだ部活動が続く部分で、その間により、きちっと

したものになっていってほしいと願いますが、1つ危惧してることは、地域開放で私のいた学校では体育館を開放してたんですが、車の乗り入れは1団体で1台と決まっていたと思うんです。

- この間のいろいろな報告の中で、そういう車の乗り入れの件が出てないと思いました。と言いますのは5時からするということで、ちょうど遅い下校の子とかが正門を通る時間に、準備のために4時半位から来ると、バッティングするのではないか。
- 6年生まではもっと早くに帰ってますが、何か委員会の活動とかで遅くなったりとかいうときに、地域クラブのかたがそういう制約があるのか知らないんですが、団体で1つと決めていただいたらいいんですが、5時というと警備員さんの勤務が終わってるので、子どもたちと何か事故とか起きないかというのを少し心配しています、これが1点。
- もう1点が、スポーツのクラブとかは、備品を持ち込むと思うんです。地域開放の時代も、持ち込まれると学校の体育備品とごっちゃになって、ないとか、壊れたとか、そういうトラブルがあったので、結局、市が古い倉庫を持ってこられた。そこに、地域開放の物品を入れて分けておられた。だから、体育倉庫がグランドにはあるんですが、そこに入ってると使うとか、逆もあったりで、細かい話ですが、実際にそういうこともご検討されてるかなと思いながら、やはり子どもに不利益があったりするといけないし、事故とか、けがに繋がると嫌だなと思いましたので、少しお尋ねというか、別に回答は今でなくていいんですが、お考えならまたの機会で教えていただけたらと思っています。

（箕面市教育委員会：高橋委員）

- 余計なことかもしれないですが1つだけ。校区に関して、最後、事前に話してなかったことなんですけども、少し柔軟になってもいいかなと思ってるところがあって、何かというと、学校の施設が足りなくなるから、教室増やしましょう。それで結構、億単位のお金を使ったりすることがあると思うんですが、無駄だと思うんです。
- だからそれやったらもう少し、校区とかも柔軟にやることで、うまく回避できるのかなというのを少し思っていました。別にこの場で話すことではないかもしれないが、せっかくの機会なので、なかなか難しいことと承知してますが、お金もかかってることなので、もう少し柔軟になってもいいかなと思ってます。

（事務局：藪本局長）

- それではたくさんのご意見、本当にありがとうございました。
- 時間になりましたので以上をもちまして、令和7年度第3回箕面市総合教育会議を閉会いたします。
- 皆さん本日は誠にありがとうございました。